

芦屋大学論叢 第81号
(令和6年3月25日)抜刷

森のようちえんの社会情動的スキルと
認知的スキルの育ちと要因

—縦断調査3年目（年少から年長）の検証—

大 谷 彰 子

森のようちえんの社会情動的スキルと認知的スキルの育ちと要因

—縦断調査3年目（年少から年長）の検証—

大谷 彰子
芦屋大学臨床教育学部

1. 目的

本稿は、森のようちえんに通う子どもの社会情動的スキル（非認知能力）と認知的スキルの育ちの縦断調査3年目の検証である。森のようちえんの年少児から年長児へのスキルの変容を、一般の就学前施設（幼稚園・保育所・認定こども園等）（以降、既存園と記載）の子どもと比較することで、幼児期における森のようちえんでの社会情動的スキルと認知的スキルの育ちの特性と、その成長要因を遊びの経験と保護者の援助の観点から明らかにすることを目的とする。

近年、グローバル化や技術の進歩の加速、環境や社会、経済など様々な分野において前例のない変化に直面しており、2030年には、より「VUCA」（予想困難で不確実、複雑で曖昧）な時代になると予測されている。そこでOECD（経済協力開発機構）は、2030年を見据えた学習の枠組みとして、2019年に「OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」を作成し、教育制度の将来に向けたビジョンと方向性を示した。これからの教育では、全人類の繁栄や持続可能性、ウェルビーイングに価値を置くことが求められ、「生徒が、単に決まりきった指導を受けたり、教師から方向性を指示されるだけでなく、未来の状況に置いても自分たちの進むべき方向を見つけ、自分たちを舵取りしていくための学習の必要性」（白井、2020）が強調された。そのために子どもに必要な力としてエージェンシーがあげられ、その定義をラーニング・コンパス2030では、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」（白井、2020）としている。

エージェンシーは、幼稚園教育要領では「主体的」に近い概念であるが、学習指導要領でも、子どもが自ら課題を発見し、考え、主体的に判断して行動し、よりよく問題解決する資質・能力を身につける教育の重要性が示されている。その上で、エージェンシーには、「社会の一員として社会がより良くなるよう考え、行動していくという責任があることが含意されて」いる。エージェンシーは学習で身につくもの、変えることができるものであり、エージェンシーを「自分のため、社会のために用いるためには、基礎的な認知的スキル、および社会情動的スキルが必要」（白井、2020）とされている。その社会情動的スキルは「よい結果へとつながること、教育や訓練によって伸ばすことができる心理特性」（小塩、2021）である。

森のようちえんにおいては、これまで園での実践や事例の分析による育ちの読み取りの検証や体力の育ちに関する検証が多くみられるが、社会情動的スキルの育ちに関する研究では、山口ら（2021）が、レジリエンスと自尊感情の育ちについて、森のようちえんの子どもはレジリエンスに関連する項目において有意に高く、自尊感情に関しては自己否定的な項目について有意に低い結果との検証をおこなったものや、社会情動的スキルの育ちに影響を与える要因を保育者の援助の観点から検証したもの（大谷、2023 a）、育ちの要因を子どもの経験と母親の関わりから検証したもの（大谷、2022, 2023 b）、自然の中では保育者の了解を得ずに自分で考えて遊ぶことで主体的で自立的な育ちがあることを示唆した研究（木戸 2016）、10の姿の特徴を認可保育園との比較から検証したもの（吉澤ら、2021）、協調性や協働性についての柳原（2018）、

杉山ほか（2015）の検証，挑戦や忍耐力の育成についての金子・西澤（2017），西澤ほか（2016）の研究などが見られる。

一方，認知的スキルの育ちについては，柳原（2019）により園児の行動や言動を参与観察法で調査し，認知的発達の側面からみた育成の過程を，6つのサイエンス・プロセス・スキルの視点で考察し，園児たちはすべてのサイエンス・プロセス・スキルを習得し育成しているという検証がなされているものの，他に認知的スキルについての検証は殆ど見当たらない。子どもたちが「エージェンシーを自分のため，そして社会のために用いるためには，生徒は基礎的な認知的スキル，および社会情動的スキルを必要」（白井，2020）としている。そのため，森のようちえんの子どもの育ちの経過を社会情動的スキルだけでなく認知的スキルも含めた両観点から客観的に検証することは，これからの社会に変化を起し，目標を設定し，責任を持って行動する力を身につけた子どもを保育していく上で必要不可欠であると考えられる。

筆者は森のようちえん全国ネットワーク連盟の承認を受け，森のようちえんの保護者を対象に2020年度から縦断調査を行っており，本稿では森のようちえんの年長児を対象に，社会情動的スキル，認知的スキルの年少から年長への育ちの経過を既存園と比較し，育ちの要因について遊びの経験と保護者の援助の観点から明らかにしていく。

2. 方法

2.1 対象者

全国の日常型森のようちえん95園の年長児の保護者179件（配布数894通，回収率20.0%）。

2.2 調査時期

2023年2月～3月に自記式アンケートを各園に郵送し，2023年3月～4月に回収した。自記式アンケートにQRコードを添付し，Webによるアンケート記入も可能とした。

2.3 分析方法

本研究でのアンケートは，NPO法人ネイチャーマジック森のようちえんさんぽみち 野澤俊索理事長と協同で作成したものである。質問項目は，ベネッセ教育総合研究所（2016）「幼児期から小学校1年生の家庭教育調査 縦断調査 第5回幼児の生活アンケート（1995年より5年ごとに実施している2015年の調査）」の「第6節 幼児の発達状況」から採用し，表現に若干の変更を加えたものに，森のようちえんならではの質問項目を加え作成した。質問はすべて4件法で回答を求めた。比較対象として，前述のベネッセの保護者アンケート（調査地域：日本全国，対象：年少児から小学校1年生までの縦断調査に同意し，調査に中断することなく継続して参加した母親，サンプル数：年少2277，年中1585，年長1077，調査時期：年少児2012年，年中児2013年，年長児2014年）の結果を用いた。以降，森のようちえんの比較対象として「既存園」と記述する。相関分析はIBM SPSS バージョン28.0を用い，spearmanの相関係数と有意確率（両側）を記載した。

2.4 倫理的配慮

アンケートの実施に際して，NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟理事会に研究の趣旨やアンケート内容，個人情報の遵守などを説明し承認を得た。アンケートには，調査の目的・倫理的配慮を記して

無記名とし、回答は統計的に処理され個人が特定されることはないこと、回答しづらい項目については、「答えられない」の選択肢を設けたことを明記した。また、前述のベネッセの保護者アンケートの結果を用いたが、引用にあたっては、ベネッセ教育研究所のHPに「研究・教育、その他の公的な目的の場合は、ご自由に引用・転載していただいて構いません。」との記載があり、出典記載例に則って出典を引用・参考文献に明記している。

3. 結果

3.1 森のようちえんでの社会情動的スキルの育ち

社会情動的スキル 24 項目を【好奇心】【協調性】【自己主張】【自己抑制】【がんばる力】に分類し、保護者が「とてもあてはまる」を選択した割合を森のようちえんと既存園の年少、年中、年長で比較した結果が図1～図5である。

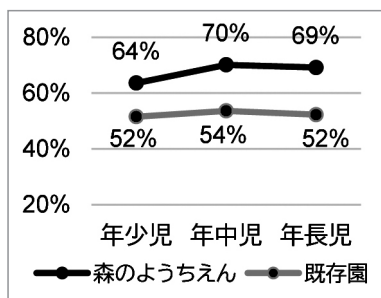


図1 好奇心

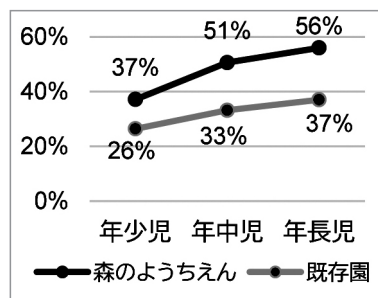


図2 協調性

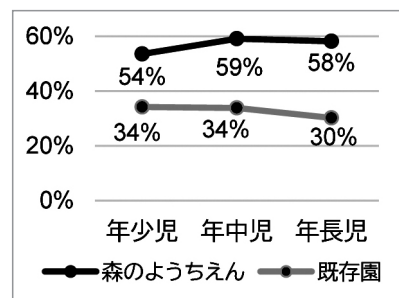


図3 自己主張

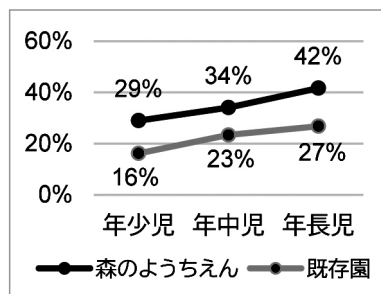


図4 自己抑制

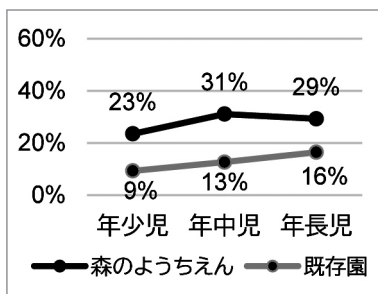


図5 がんばる力

社会情動的スキルのすべての項目と学年で森のようちえんのほうが既存園よりも身につけており、【がんばる力】以外の4項目は、学年が上がることでその差が広がる結果であった。年長児時点で多くの子どもに身につけているスキルは、既存園では【好奇心】52%、それ以外のスキルは30%台かそれ以下であった。一方森のようちえんでは【好奇心】が69%、【協調性】56%、【自己主張】58%が半数以上、【自己抑制】と【がんばる力】もそれぞれ既存園の1.62倍、1.83倍身につけている。特に差が大きかったスキルは【自己主張】28ポイント差であった。社会情動的スキルの中で、学年が上がることで成長するスキルは【協調性】と【自己抑制】、年少からあまり成長が認められない項目は【好奇心】と【自己主張】であり、これは森のようちえん、既存園共に同様の結果であった。

3.2 森のようちえんでの認知的スキルの育ち

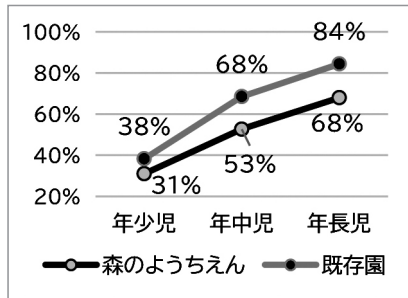


図6 文字

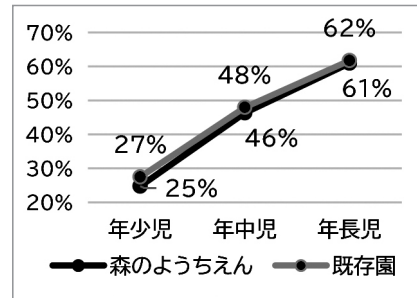


図7 数

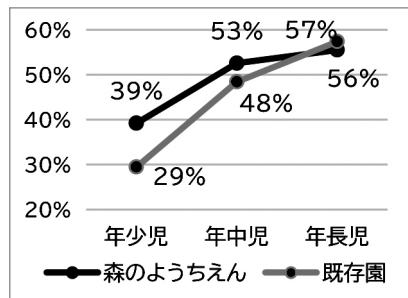


図8 言葉

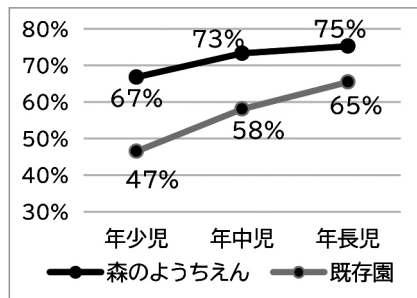


図9 分類する力

森のようちえんと既存園の認知的スキル【文字】【数】【言葉】【分類する力】の育ちを比較したグラフが図6～図9である。保護者が「とてもあてはまる」を選択した割合を記載している。年長児時点で、認知的スキルの【文字】が既存園の方が16ポイント高く、【数】と【言葉】が同程度、【分類する力】が森のようちえんの方が10ポイント高い結果であった。社会情動的スキル、認知的スキルあわせて、森のようちえんが明らかに低かった項目が【文字】（既存園84%、森のようちえん68%）であり、特に「かな文字を読める」（既存園83%、森のようちえん64%）、「10までの数字を書ける」（既存園78%、森のようちえん61%）と読み書きに関するスキルが低い結果であった。一方、【分類する力】の「ことばで「多い」「少ない」「大きい」「小さい」を正しく使える」（既存園58%、森のようちえん77%）、「身の回りにあるものの長さや大きさ、高さを直接並べて比べられる」（既存園56%、森のようちえん70%）などの知識を利用して応用する実践対応力は既存園よりも高い結果であった。

3.3 社会情動的スキルの育ちと森のようちえんでの経験の相関

社会情動的スキル24項目の育ちと森での子どもの経験14項目（【遊びこむ経験】6項目、【設定的な活動】4項目、【共同的な活動】4項目）の相関を検証し、5項目以上で1%水準で有意な関連が認められた経験のspearmanの相関係数と有意確率（両側）を一覧にしたものが表1である。

表1 社会情動的スキルと森のようちえんでの経験の相関一覧

	社会情動的スキル	遊びこむ経験				協働的な活動		
		遊びに自分なりの工夫を加える	挑戦的な活動に取り組む	先生に頼らずに製作(ものづくり)する	見通しをもって遊びをやり遂げる	行事(運動会や生活発表会など)で友だちと協力し合う	目標に向け友達と協力して取り組む	友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る
	相関のある項目数	20	10	14	14	5	9	18
好奇心	好きなことに集中して遊べる	.307**						
	わからないことについて、「なぜ、どうして」など、まわりに質問ができる	.213**						.249**
	新しいことに好奇心を持てる	.217**						.237**
	工夫して遊べる	.380**	.266**	.329**	.238**			.292**
協調性	人に自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることができる	.239**		.215**				.315**
	遊ぶとき、「いれて」「一緒に遊ぼう」「貸して」など友達に声掛けができる	.207**						.203**
	友達とけんかしても、謝るなどして仲直りができる	.244**		.258**	.206**		.232**	.309**
	遊びなどで友達と協力することができる	.300**	.307**	.297**	.288**	.242**	.372**	.365**
自己主張	友達と意見が違っても、自分の考えを主張することができる	.240**			.206**			.237**
	困ったことがあったら、周りの人に助けを求めることができる	.241**	.251**	.216**			.235**	.277**
	友達からイヤなことをされたら、「いや」「やめて」などと言える	.202**						
	自分が何をしたいと言える	.212**						.242**
自己抑制	欲しいもの、して欲しいことを大人に頼める	.201**	.219**					
	夢中になっていることでも、時間が来れば、次のことに移ることができる	.206**	.234**		.266**	.240**	.207**	.301**
	人の話が終わるまで静かに聞くことができる			.236**	.223**	.219**	.213**	
	自分がやりたいと思っても、人のいやがることは我慢できる		.212**	.272**	.246**	.208**	.205**	.270**
	遊びを中断されても、時間をおいて続けられる	.276**		.227**	.251**	.202**		.236**
	ルールを守りながら遊べる	.219**		.208**	.280**			.223**
がんばる力	遊びなどで順番が回ってくるまで待てる			.216**	.219**			.215**
	どんなことに対しても、自信を持って取り組める	.239**	.283**	.280**	.297**		.276**	.277**
	ものごとをあきらめずに、挑戦することができる	.269**	.340**	.306**	.386**		.266**	.308**
	自分でしたいことが上手にできないときでも、工夫して達成しようとする ことができる	.299**	.269**	.360**	.349**		.237**	.361**
	一度始めたことは最後までやり通せる	.216**	.232**	.227**	.280**			

** p<0.001

子どもの経験のうち社会情動的スキルと正の相関が認められた項目数は、【遊びこむ経験】66項目、【設定的な活動】0項目、【共同的な活動】34項目と、【遊びこむ経験】が多かった一方で【設定的な活動】では全く相関が認められなかった。森のようちえんと既存園の各園での経験の割合が、【遊びこむ経験】(森のようちえん83%、既存園67%)、【設定的な活動】(森のようちえん21%、既存園64%)、【協働的な活動】(森のようちえん71%、既存園72%)であり、既存園はすべての活動が同程度おこなわれているのに対し、森のようちえんでは【遊びこむ経験】が多く、【設定的な活動】が特に年長(年少30%、年中30%、年長21%)で減少している。【設定的な活動】が少ないことが相関が認められなかった要因の一端である可能性はあるが、森のようちえんでは【設定的な活動】では社会情動的スキルの育ちに相関は認められなかった。

相関が多い経験1位は、【遊びこむ経験】の「遊びに自分なりの工夫を加える」20項目、【協働的な活動】の「友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る」18項目、【遊びこむ経験】の「先生に頼らずに製作(ものづくり)する」14項目、【遊びこむ経験】の「見通しをもって遊びをやり遂げる」14項目、【遊びこむ経験】の「挑戦的な活動に取り組む」10項目と続いていた。上位5項目のうち4項目が【遊びこむ経験】であり、【遊びこむ経験】が社会情動的スキルの育ちに不可欠であること、【設定的な活動】が森のようちえんでの社会情動的スキルの育ちに影響を与えないことが改めて示唆された。

3.4 社会情動的スキルの育ちと保護者の関わり

森のようちえんでの社会情動的スキルの育ちと保護者の関わり20項目(【養護意識】4項目、【意欲の尊重】4項目、【受容的・積極的かかわり】3項目、【受容的・見守り】3項目、【指導的かかわり】6

項目)を比較し、5項目以上で相関が認められた関わりの spearman の相関係数と有意確率(両側)を一覧にしたものが表2である。

表2 社会情動的スキルと保護者のかかわりの相関一覧

	社会情動的スキル	養護意識		意欲の尊重		受容的・積極的かかわり	受容的見守り
		子どもを傷つけるような言動をした場合は、子どもに謝る	子どもが何をしたいのかを把握している	子どもがやりたいことを尊重し、支援している	どんなことでも、まず子どもの気持ちを受け止めるようにしている	子どもに様々な体験をさせるようにしている	子どもが自分でやろうとしているとき、手を出さずに最後までやらせるようにしている
	相関のある項目数	5	14	5	17	5	14
好奇心	好きなことに集中して遊べる	.202**		.276**	.250**		.216**
	わからないことについて、「なぜ、どうして」など、まわりに質問ができる	.221**					
	新しいことに好奇心を持てる					.207**	
	生き物や植物に興味を持てる					.223**	
	工夫して遊べる		.233**			.237**	.211**
協調性	人に自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることができる		.242**		.240**		.256**
	友達とけんかしても、謝るなどして仲直りができる	.201**			.259**	.223**	.268**
	遊びなどで友達と協力することができる		.219**		.284**	.219**	.210**
自己主張	友達と意見が違っても、自分の考えを主張することができる		.238**				.201**
	困ったことがあったら、周りの人に助けを求めることができる		.215**		.230**		
	友達からイヤなことをされたら、「いや」「やめて」などと言える		.207**		.201**		
	自分が何をしたいか言える		.222**	.240**			
自己抑制	欲しいもの、して欲しいことを大人に頼める	.225**	.237**		.237**		
	夢中になっていることでも、時間が来れば、次のことに移ることができる	.211**	.204**		.261**		.211**
	人の話が終わるまで静かに聞くことができる				.263**		.222**
	自分がやりたいと思っても、人のいやがることは我慢できる				.261**		
	遊びを中断されても、時間をおいて続けられる		.282**		.298**		.256**
	ルールを守りながら遊べる		.204**		.265**		
がんばる力	遊びなどで順番が回ってくるまで待てる				.250**		.201**
	どんなことに対しても、自信を持って取り組める		.226**	.216**	.253**		.235**
	ものごとをあきらめずに、挑戦することができる		.213**	.254**	.246**		.259**
	自分でしたいことが上手くいかないときでも、工夫して達成しようとする事ができる				.214**		.236**
一度始めたことは最後までやり通せる		.207**	.240**	.291**		.285**	

** $p < 0.001$

保護者の関わりのうち社会情動的スキルと正の相関が認められた項目数は、【養護意識】20項目、【意欲の尊重】24項目、【受容的・積極的かかわり】6項目、【受容的・見守り】14項目であり、【指導的かかわり】の項目との相関は認められなかった。相関が多かった関わり1位は、【意欲の尊重】の「どんなことでも、まず子どもの気持ちを受け止めるようにしている」17項目、【養護意識】の「子どもが何をしたいのかを把握している」14項目、【受容的・見守り】の「子どもが自分でやろうとしているとき、手を出さずに最後までやらせるようにしている」14項目であった。この表には記載していないが、社会情動的スキルの育ちと【学年】の間に相関はなく、社会情動的スキルは、学年が上昇することで自然と身につくスキルではないことが示唆された。

3.5 認知能力の育ちとその要因

森のようちえんでの認知的スキルの育ちと、子どもの経験【遊びこむ経験】【設定的な活動】【協働的な活動】、【学年】、【保護者のかかわり】を比較し、2項目以上で相関が認められた項目について、spearmanの相関係数、有意確率（両側）を一覧にしたものが表3である。

表3 認知的スキルの育ちとその要因の相関一覧

認知スキル	保護者の関わり						学年	園での経験				
	養護意識		意欲の尊重		受容的積極的かかわり	受容的見守り		指導的かかわり	遊びこむ経験		協働的な活動	
	子どもを傷つけるような言動をした場合は、子どもに謝る	子どもが何をしたいのかを把握している	叱るとき、子どもの言い分を聞くようにしている	どんなことでも、まず子どもの気持ちを受け止めるようにしている	子どもに様々な体験をさせるようにしている	子どもが自分でやろうとしているとき、手を出さずに最後までやらせるようにしている	小学校入学までに読み書きができるようにしている	遊びに自分なりの工夫を加える	挑戦的な活動に取り組む	友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る	行事の役割(劇の配役やリレーの順番など)を子どもたちが決める	
相関のある項目数	3	4	3	3	5	3	9	10	5	2	4	2
文字	自分の名前を読める						.316**	.273**				
	かな文字を読める						.362**	.351**				
	自分の名前をひらがなで書ける						.338**	.476**				
	10までの数字を書ける						.399**	.462**				.204**
数	1, 2, 3, 4と、20までの数を正しく数えられる						.328**	.398**				
	「1個、1本…」などの数え方ができる					.208**	.213**	.268**	.291**	.201**	.237**	.228**
言葉	指やおはじきなどを使って、数を足したり、引いたりすることができる						.339**	.474**				
	言葉遊びができる(しりとり、だじゃれなど)						.206**	.309**			.229**	
	見聞きたことをまわりの人に話することができる								.290**			
	絵本や図鑑を一人で読める	.228**			.205**	.257**	.246**	.227**				
自分の言葉で順序をたてて、相手にわかるように話せる	.248**	.211**	.226**	.215**	.221**	.236**		.239**		.246**		
分類する力	生活の場面で形にかかわる言葉を使える。(まる、さんかく、しかくなど)											
	形について同じ仲間を集められる	.219**				.241**			.225**	.204**		
	言葉で「多い」「少ない」「大きい」「小さい」を正しく使える		.247**	.227**	.242**				.250**			
身の回りにあるものの長さや大きさ、高さを直接並べて比べられる	.253**	.238**	.208**	.222**	.235**			.203**	.295**	.253**		

** p<0.001

認知的スキル【文字】4項目、【数】3項目、【言葉】4項目、【分類する力】4項目の育ち要因として相関が多く認められた項目は、1位【学年】10項目、2位【保護者の関わり】の【指導的関わり】「小学校入学までに読み書きができるようにしている」9項目であった。【文字】や【数】といった読み書きや簡単な計算力は、学年の上昇と保護者の意識的な関わりによる影響が大きかった。今回、年長時で森のようちえんの保護者が「小学校入学までに読み書きができるようにしている」を選択した割合（既存園 84.8%，森のようちえん 45.9%）が大変低いことが、森のようちえんの認知的スキルの「文字」が16ポイント低い結果であった主な要因であると推測する。

認知的スキルに影響を与えた【保護者の関わり】2位は、【受容的・積極的かかわり】「子どもに様々な体験をさせるようにしている」5項目、【養護意識】「子どもが何をしたいのかを把握している」4項目であった。認知的スキルに影響を与えた【園での経験】は、1位【遊びこむ経験】の「遊びに自分なりの工夫を加える」5項目、【協働的な活動】の「友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意な事を知る」4項目であった。【園での経験】のうち相関が認められたのは、【遊びこむ経験】8項目、【設定的な活動】0項目、【共同的な活動】8項目であり、【設定的な活動】は、社会情動的スキルだけでなく認知的スキルの育ちにおいても相関が認められなかった。

【学年】と【指導的関わり】の「小学校入学までに読み書きができるようにしている」は、ほとんどが読み書きや基礎的計算力の育ちにのみ影響を与えており、それ以外の【保護者の関わり】や【遊びこむ経験】は、基礎的学力ではなく、それを応用する力に影響を与える結果であった。

4. 考察

4.1 森のようちえんの社会情動的スキルと認知的スキルの育ち

森のようちえんの社会情動的スキルは、すべての項目と学年で既存園よりも身につけており、【がんばる力】以外の4項目は、学年の上昇により差が広がる結果であった。森のようちえんは、既存園より社会情動的スキルが身につけやすい環境であると言える。社会情動的スキルの中で、学年の上昇に伴い成長するスキルは【協調性】と【自己抑制】、変化が少ないスキルは【好奇心】と【自己主張】であり、【がんばる力】は年長時点でも森のようちえん29%、既存園16%と幼児期に身につけにくいスキルであった。保護者が「とてもあてはまる」を選択した割合が、年長時点で既存園の2倍以上あったスキルは、【自己主張】「自分が何をしたいかを言える」、「困ったことがあったら、まわりの人に助けを求められることができる」、【自己抑制】「遊びを中断されても、時間をおいて続けられる」、【がんばる力】「どんなことに対しても、自信をもって取り組める」、「自分でしたいことがうまくいかないときでも、工夫して達成しようとすることができる」の5項目であり、森のようちえんでは【自己抑制】や【がんばる力】など幼児期に身につけることが難しいスキルが育っている。

認知的スキルでは、【数】、【言葉】が同程度、【分類する力】は森のようちえんが10ポイント程度高く、【文字】は16ポイント既存園の方が高かった。「かな文字を読める」「自分の名前をひらがなで書ける」「10までの数字を書ける」といった机上の学びである読み書きに関する知識は、森のようちえんの子どもの方が低かった。一方、「ことばで「多い」「少ない」「大きい」「小さい」を正しく使える」「身の回りにあるものの長さや大きさ、高さを直接並べて比べられる」「自分のことばで順序をたてて、相手にわかるように話せる」といった「遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか（幼稚園教育要領2018）」といった「思考力・判断力・表現力等の基礎」といった実践的な対応力は、森のようちえんの子どもの方が身につけている。

4.2 社会情動的スキルの育ち要因

社会情動的スキルが育つ子どもの経験は、上位から「遊びに自分なりの工夫を加える」「友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る」「見通しをもって遊びをやり遂げる」「先生に頼らずに製作（ものづくり）する」「挑戦的な活動に取り組む」であった。5項目中4項目が【遊びこむ経験】、1項目が【協働的な活動】で、【設定的な活動】は社会情動的スキルの育ちとの相関は認められなかった。

社会情動的スキルが育つ保護者の関わり要因は、「どんなことでも、まず子どもの気持ちを受け止めるようにしている」「子どもが何をしたいのかを把握している」「子どもが自分でやろうとしているとき、手を出さずに最後までやらせるようにしている」といった子どもの気持ちを共感・理解・尊重して見守る援助であり、積極的な関わりや指導的かかわりは、社会情動的スキルの育ちを促進する要因とはならないという結果であった。

4.3 認知的スキルの育ち要因

子どもの認知的スキルに影響を与える要因1位は「学年」であった。年齢が上がるにつれ周囲の子どもが読み書きする姿に刺激を受けることでの内的要因や、友達に手紙を書くなど、文字をコミュニケーションツールとして使用する必要に迫られる要因が推察される。「小学校入学までに読み書きができるように援助している」といった保護者の指導的関わりが2位だったことは、文字の読み書きなどのスキルの育ちには、

大人からの外的要因や環境が重要であることを示している。認知的スキル 15 項目中 10 項目の読み書きや簡単な計算力は学年が上がることで身につくが、残り 5 項目の「自分の言葉で順序をたてて、相手にわかるように話せる」や「生活の場面で形にかかわる言葉を使える」といった、知識を生活の場面で応用する実践力は「学年」との相関は認められず、保護者に思いを尊重されながら、遊び込み自分なりの工夫をして失敗することで身につけている。

4.4 認知的スキル・社会情動的スキル、両方の育ちにつながる経験

今回の検証で、認知的スキル・社会情動的スキル、双方の育ちにつながる経験として、どちらも 1 位は「遊びに自分なりの工夫を加える」であり、2 位は「友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る」であった。遊びこみ試行錯誤する経験と友達を肯定的にみる視点を育むことは、認知的スキル・社会情動的スキルの両方を育む要因であり、カリキュラムを作成する上でこれらの経験を盛り込む重要性を示唆する結果であった。

4.5 今後の研究

今回の調査は、森のようちえんの社会情動的スキルと認知的スキルの育ちに関する縦断調査の 3 年目の結果である。今後引き続き縦断調査を行い、自然体験を重視した森のようちえんでの保育が就学後の子どもの育ちに与える影響について検証していきたい。

【謝辞】

本研究を行うに当たり、アンケートに快くご協力いただきました全国の森のようちえんの保育者、保護者の皆さまに心より御礼申し上げます。また、アンケートを協同で作成していただいた森のようちえんさん ぼみち NPO 法人ネイチャーマジック理事長 野澤俊索様に、心より感謝申し上げます。

【引用・参考文献】

- ・白井俊：『OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来』，ミネルヴァ書房，2020.
- ・小塩真司：『非認知能力 概念・測定と教育の可能性』，北大路書房，2021.
- ・山口三和・酒井真由子・木戸啓絵・大道香織：幼児期の経験がレジリエンスと自尊感情に及ぼす影響－「森のようちえん」の卒園児に注目して－，上越教育大学研究紀要第40巻，pp.495-506，2021.
- ・大谷 彰子：森のようちえんの社会情動的スキルと認知的スキルの育ち－縦断調査2年目の検証－，芦屋大学論叢 (78) pp.127-138，2023 a.
- ・b 大谷彰子：森のようちえんの学びに向かう力の育ちに影響を与える要因，自然保育学研究 5(1)，pp.1-10，2023 b.
- ・大谷彰子：森のようちえんの園児の社会情動的スキルの育ちに影響を与える要因－園での生活経験と保護者のかかわりに焦点を当てて－，芦屋大学論叢 (76) pp.43-54，2022.
- ・木戸啓絵：「森のようちえん」における他機関との連携の実態 -三重県の事例から-，岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要 48，pp.45-58，2016.
- ・吉澤英里・藪田弘美・前川真姫・安久津太一：森のようちえんの遊びで観察される「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の特徴?認可保育園との比較に基づく一考察?，チャイルド・サイエンス = Child science，子ども学 21，pp.58-61，2021.
- ・柳原高文：「森のようちえん」における園児の「アクティブ・ラーニング」および「生活科」とのかかわり，名寄市立大学紀要，12，pp.11-21，2018.
- ・杉山浩之・牧亮太・黒田愛乃：森のようちえんにおける子どもへの教育効果～保護者アンケート及びインタビューを通して～，『広島文教教育』，30，pp.23-32，2015.
- ・金子龍太郎・西澤彩木：森のようちえんに通う一女兒の縦断的観察：主体性の育ちを中心に：3年間記録の1年目』，『幼年教育研究年報』，39，pp.71-80，2017.
- ・西澤彩木・田中裕喜・菅眞佐子：幼児における自然環境についての学び：「森のようちえん」の活動を通して (1)，『滋賀大学環境総合研究センター研究年報』，13(1)，pp.23-37，2016.
- ・柳原高文：「森のようちえん」における園児の「学び」－サイエンス・プロセス・スキルの視点から－，名寄市立大学紀要第13号，pp.45-55，2019.
- ・ベネッセ：幼児期から小学4年生の家庭教育調査・縦断調査 最終閲覧 2023.12.
https://berd.benesse.jp/up_images/publicity/pressrelease_20190225_.pdf，2019，
- ・ベネッセ：園での経験と幼児の成長に関する調査 最終閲覧 2023.12.
<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail 1.php?id=4940>，2016
- ・文部科学省：幼稚園教育要領，2018.